

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

(別添様式2)

公表日：令和6年2月1日

事業所名：有限会社ポラリス翔野里

サービス種類：(放課後等デイサービス)

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	指定基準に基づきサービスを行っている。 活動内容により場所を分けるなどの配慮もしている。	「はい」が65%	利用者の状況や活動内容に応じて、今後も空間利用のした方を工夫していく。
	2 職員の適切な配置	利用定員の基準に基づきサービスを行っている。	「はい」が71%	利用者の要望や特性に応じて、適切な支援ができるように今後も十分に配置できるように努めいきたい。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	完全なバリアフリー化はできていないが、使いやすいようにその都度工夫している。 視覚支援も取り入れながら、わかりやすい支援を心がけている。	「はい」が71% 施設で過ごす様子を長時間見たことがないので判断できないが適切であると信頼している。	今後も利用者の特性や状態に応じて適切な空間の構造化や支援の方法の工夫に取り組んでいく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日の清掃、食事前後の消毒などを徹底して行っている。感染拡大を防ぐために換気も注意して行っている。	「はい」が71%	引き続き感染症予防も含め清掃・消毒・換気を十分に行い、安心・安全に過ごせるように務める。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	定期的に会議を行い、職員の共有に努めている。	/	職員の認識を高め、積極的に全員が参画できるよう取り組みを深めていく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	現在は行っていません。		必要に応じて検討していく。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	事業所内での研修や各施設において会議などで随時行っている。また、オンライン研修等にも可能な限り参加するようにしている。		内部研修は今後も内容を見直しながらさらに職員の資質向上に努めていく。さらに外部での研修にも積極的に参加していきたい。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	契約時に行いその後モニタリングの時などに実施しながら、相談所の計画を参考に計画立てている。	「はい」が93%	保護者のニーズない偏らないように、利用者本人の気持ちも大切に計画に反映できるように日常の様子をしっかりと見ながら聞き取りも行っていく。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	定期的に見直し個別と集団での様子を踏まえて計画に反映するようにしている。		達成できたかどうかを随時検討し現状に合わせた適切な計画を作成していく。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	会議をしながら職員で検討・共有しながら、わかりやすい内容で記載するようにしている。		今後も子どもの成長や姿に合わせて、具体的にわかりやすい内容を記載できるように務める。

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供（続き）	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	計画に基づいて支援を行うようにしている。支援が適切かについても随時見直しを行っている。	「はい」が93%	職員全員が計画を理解して支援を行っていくように今後も務めていく。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	いろいろな活動ができるように、意見を出し合い検討している。		今後も季節感や体験させてあげたいことなど利用者が楽しめることなどニーズに合わせてチーム全体で考えていく。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	利用時間や利用者のニーズを考慮しながら、外出先や活動内容を工夫し支援を行っている。	「はい」が93%	利用者や保護者のニーズに合わせてながら、きめ細やかな支援ができるように今後も工夫していく。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	定期的に決まっているプログラムもあるが、月ごとに内容を検討している。		利用者のニーズや特性に合わせて決まったプログラムも必要なこともあるが、季節なども考慮しながら、マンネリ化しないように工夫していく。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	支援前にその日の流れを確認している。体調などの申し送りなどもその都度確認して伝えるようにしている。		今後も職員間での情報共有、支援の確認など丁寧に行っていく。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	終了後にその日の振り返り（注意すべき点や気になったこと等）を行っている。また、送迎時に保護者からの申し送りなども確認している。		今後も丁寧に振り返りを行い職員全体で情報共有を行っていく。
	10 日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	日々の活動は個人記録や業務日誌などに記録している。定期的な会議により振り返り、検討などを行っている。		丁寧に記録を取り、支援の検証・検討を今後繰り返し行い、支援の改善に繋げていく。
11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	定期的なモニタリングを行うとともに、送迎時などに保護者と話をするなどして計画の見直しに反映できるようにしている。		定期的なモニタリングだけでなく新たな課題や支援にずれを感じた時など積極的に聞き取りを行い計画の見直しを行っていく。	

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	児童発達支援管理責任者が可能な限り参加するようにしている。		これからも適切な者が参加し、情報共有できるように努めていく。
	2 （医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3 （医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校（小学部）等との間での支援内容等の十分な情報共有	現在は実地されていない。支援所からの情報のみである。 利用希望者の見学を随時行い。その時に聞き取りを行っている。		今後検討し必要な情報共有し、スムーズに移行できるようにしていきたい。
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	会社内の移行については情報提供できているが、外部については受動的になっている。		必要であれば随時行っていく。
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	現在はできていない。		必要な研修に積極的に参加し、職員の資質向上につなげていきたい。
	7 児童等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	現在は行っていない。	「いいえ」「わからない」が79% 機会があればありがたいが、他のデイでもないため、それが通常という認識である。	ニーズを把握しながら、必要に応じて今後検討していく。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	事業所自体の行事への招待は行っていないが、関連のレストランのイベントや関連事業所の畑などに利用者は可能な範囲で参加し、事業所外の人との交流に努めている。		今後事業所の行事などが出来れば積極的に保護者も招待するなど開かれた運営に努めていきたい。

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時に説明を行っている。 臨時に費用が必要な時は前もって説明を行っている。	「はい」が93%	今後も丁寧に分かりやすい説明に努める。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	見直し時に保護者に説明し同意を頂いている。	「はい」が93%	今後も丁寧に分かりやすい説明を行っていく。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	専門的にペアレントトレーニングとしては行っていないが、日々の関わり方などについては説明している。	「はい」が37% 「どちらともいえない」「いいえ」「わからない」が63%	ニーズに応じ必要になった時に行えるように職員の研修などを行っていきたい。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	送迎時などに日々の様子を伝えながら聞き取りなどを行い、共通理解に努めている。	「はい」が73%	今後も、保護者との連帯に努め、子ども達の共通理解に努めていく。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	相談があった時は話を聞くようにしています。	「はい」が50% 「どちらともいえない」が36% 「いいえ」・「わからない」が7%	適切な助言ができるように職員の資質向上に努めていく。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	現在は行っていません。	「いいえ」・「わからない」がともに43% 機会があればありがたいが、他のデイでもない。	ニーズや必要に応じて検討していく。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情があった時は迅速に対応するようにしている。	「はい」が43% 「わからない」が50%	マニュアルに沿って迅速に対応できるように努める。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	それぞれの障害特性や状態に合わせて伝達方法を工夫するように努めている。	「はい」が93%	今後も十分に意思疎通（コミュニケーション）ができるように伝達方法を配慮していく。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	毎月「こぐま通信」により施設の予定や関連機関の様子を発信しています。	「はい」が93%	より内容を充実させていく。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	取り扱いには十分に注意しています。	「はい」が71%	今後も十分に注意して対応していきます。

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	作成はしているが保護者への周知ができていない。	「はい」が43% 「わからない」が29% 「どちらともいえない」・「いいえ」が14%	各マニュアルの周知に努める。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	定期的に行っているが、利用者全員には実施できていない。	「はい」が29% 「わからない」が57%	実施方法や周知方法を見直して、訓練を行っていく。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	定期的に委員会を行い各施設でも研修を行うようにしている。		今後も研修を行い、必要に応じて外部研修への参加にも取り組み、支援の見直しなど適切な知識を身につけていけるように努めていく。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	職員間で必要かどうか話し合い、必要に応じて保護者に説明する用意をしている。		十分に検討しながら、必要に応じて説明・計画への記載を行っていく。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	保護者に聞き取りを行い対応しています。		十分な聞き取りを行い、今後必要になれば、医師の指示をよる対応を行っていく。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	事例については事業所内で作成し、会議などで情報共有している。		今後も事故の内容に意識向上に努め、ヒヤリハットの共有・検討を行っていく。